

第一回 i-Shipping (design) 推進のための CFD 高度化検討委員会 議論の概要

1. 開会等

(1) 挨拶

- 国土交通省海事局船舶産業課課長の宮武より、
 - ・本年6月に交通政策審議会海事分科会海事イノベーション部会において答申「海事産業の生産性革命 (i-Shipping) による造船の輸出拡大と地方創生のために推進すべき取組について」の取り纏めを行ったこと
 - ・この答申では、我が国造船業が達成すべき目標として、情報技術等を活用して船舶の「開発・設計」から「建造」、「運航」に至る全てのフェーズで生産性を向上させることで、2025年に建造シェア30%の獲得を目指すとしていること
 - ・本事業は、「開発・設計」における生産性の向上の主要施策の一つとして位置づけられていることを説明した。

(2) 出席者紹介

事務局（日本海洋科学）より出席者の紹介を行った。

(3) 委員長専任

大阪大学 戸田教授が委員長に選任された。

2. 主な議論

(1) 検討の背景と概要

- 海事局より「資料 1-1 検討の背景と概要」についての説明を行った。

(2) 検討の進め方

- 海事局より「資料 1-2-1 検討の進め方」についての説明を行い、海上技術安全研究所より「資料 1-2-2 CFD 高度化の目標（案）」の説明をおこなった。
- 各社が使っている汎用の CFD ソフトがあるので、計測したデータがこれらの高度化にも寄与することが望ましいとの意見があった。
- 本事業による実船計測を行うことで、CFD の高度化とともに実船流場の計算に必要なコンピューターの能力も明らかとしていく必要があるとの意見があった。

(3) 今年度の実施計画

- 海上技術安全研究所「資料 1-3 今年度の実施計画」について説明を行った。
- 本事業の実船計測において使用を予定している機器及びその能力などについて議論が行われた。
- また、造船所等において、本事業とは別に実船計測を行うことが想定されることから、実船計測の方法についても、汎用性のあるものとするのが期待されるとの意見があった。

3. 閉会

事務局より、第二回委員が年度末開催予定である旨案内がなされた。

以上